

情報社会の次の時代へ 学校の学びが変わる GIGA スクール構想

「GIGAスクール」という言葉を聞いたことがありますか？
子どもを持つ親としては、「GIGAスクール構想」とは
どのような取り組みなのか気になるところ。
子どもたちの学びはこれからどう変わるのか？
市のGIGAスクール担当者に
話を聞いてみました。

タブレット端末はiPadで▶
外付けキーボードを
組み合わせて使用



G IGAスクール構想とは、一人一台の端末を配り、インターネット環境を整えて、これからの時代を生きる子どもたちを誰一人取り残すことなく、一人一人に合った教育の実現のために文部科学省が掲げた構想です。

これまでの学習で調べ物をするときは、図書館や校内のコンピュータ室へ行って調べものをしていましたが、今では

子ども一人に一台の端末が手元にあることで、分からないことや知りたい情報をすぐに得ることができます。

なぜ今、GIGAスクールに取り組むのか？

これまでの市のGIGAスクール整備や現場教員の研修を担当してきた井崎さんは、「日本の教育は、世界的に見ると

ICT※を活用した学習が大幅に遅れていて、国としても非常に強い危機感を持っています」と話します。現在ICT教育の進んだ国では、子どもたちが課題や資料をダウンロードして学習し、そのデータなどをアップロードして提出することが普通に行われています。

一方で「日本の子どもたちは、普段からICTに触れていないわけではありません。学校から家に帰ればオンラインゲームをする子やSNSを見る子など、日常生活で普通にICTに触れているのです。ただ教育に活かされていないだけなのです」と井崎さんは言います。

コロナ禍で一気に「新しい学び」の時代へ

市は平成27年から、情報社会へ向けた人材育成のため、各小中学校へ電子黒板と各校に40台のタブレット端末の整備を行ってきました。これは県内でも先駆けた取り組みでした。

しかし、去年3月、緊急事態宣言を受けての一斉休校を機に状況は一変しました。休校になっても子どもたちの学びを止めないために、令和2年度にGIGAスクール環境を整えることとなり、4月には市内全ての小中学校に一人一台のiPadと通信環境を整えることができました。

※ICT：インターネットなどの通信技術を活用したコンピュータ環境



学校教育課 教育研究係 指導主事(中学校教員) 佐々木 孝さん
学校教育課 教育研究係 指導主事(小学校教員) 井崎 重さん

子どもの時からICT環境に慣れて上手く活用してほしい

家庭にネット環境が無くても学校で早くからデジタルに慣れることで、子どもの将来の選択肢が広がります。担当の佐々木さんは「今後子どもたちには、配布されたiPadで調べたいことを検索するのはもちろん、写真や動画を撮りまとめたものを発表する道具の一つとして上手に使う、ICT環境に慣れて欲しい」と話します。

担当者は「急ぎの整備だったので、運用面や細かな調整はこれから進めていく予定です。保護者のみなさんには、子どもたちが端末を持ち帰ってきた時の家でのルール決めや、一緒に使ってみて、学校でどのような学習をしているのか話を聞いて欲しい」と協力を呼びかけました。

授業内で変わること

	これまで	これから
一斉学習	先生は板書をしながら子どもたちへ向けて授業を行う。	子どもたちの画面をリアルタイムで先生の端末に一覧表示し、一人一人の反応を把握して授業を進めることができる。
個別学習	一人一人の理解度に応じた学びを提供することが難しく、全員が同時に同じ内容を学習する。	各自の端末から学習した内容の履歴を確認できるので、それぞれの習熟度を把握し、その子に合わせた課題を提供できる。
協働学習	グループ発表は可能だが、意見を発表する子どもが限られる。	子どもたち一人一人が考えをまとめたものをリアルタイムで共有し、お互いの意見交換がより活発になる。

授業外で変わること



家庭学習

自分専用のタブレット端末なので家でも分かるまで調べたり、じっくり自分のペースで取り組むことができます。



学校と家庭をつなげる

休校時でも、タブレット端末を通して先生と子どもの様子を確認できるので、保護者にとっても安心です。

